

報告活動についての質問と回答

——参加型のイベントやフィールド活動を開くにあたって、参加者から参加料を集めていますか？

足立成亮さん(フォレストスケープ)

さきほど報告した集会イベントは、参加者からお金をいただきました。それによって講師謝礼、食費、保険料を賄いました。料金は1人2000円、家族参加の場合は3000円です。

渡邊亮宏さん(恵庭ふるさと100年の森)

キャンプイベントでは1人3000円の参加料をいただきました。また、保護者会のボランティアで開催した「森フェス」は、人件費がかからなかったため、保険料として1人300円だけ徴収しました。

高橋眞由美さん(「夢見の森」に目覚める・森林再生プロジェクト)

イベントによってまちまちです。無料の場合もあれば、保険料として1人1000円、家族で1000円とか。本州方面から講師を招いた時は1人4000円の料金にしました。ドネーション(寄付)制も併用しましたが、必ずしも応じてもらえず、資金集めは難しいと感じています。

奥山寿久さん(自然エネルギーを考える会)

イベントによってまちまちです。利益を出すというより経費を賄う程度の参加費を集めています。作業ボランティアの場合は保険料徴収だけで済みますが、クサギ染めの体験会などでは材料費と、1人1000円の参加費を負担してもらっています。

——「夢見の森」は、地域への移住者が会員に多いとのことですが、どのようにつながりを持ったのですか？

高橋眞由美さん(「夢見の森」に目覚める・森林再生プロジェクト)

多くはシュタイナー学校のコミュニティです。洞爺湖町は「あこがれの移住先」で、移住者同士、いろいろな活動がどんどんつながってくる土地柄です。町役場の地域おこし協力隊員を通じて情報発信したり、マスメディアにも協力してもらっています。

——16ヘクタールを下刈りすると、どのくらいの期間が必要ですか？

足立成亮さん(フォレストスケープ)

作業負荷がまちまちなので一概に言えませんが、単純に下刈りだけなら半月もあれば済む面積だと思います。ただ、未生(発芽して間もない若木)をなるべく切らないようにていねいにササ刈りをする、というのが今回のコンセプトでした。機械で刈れない場所はハサミ、ノコで作業することになり、非常に苦勞しました。ササが大きく成長する時期に合わせて刈りますが、丸々1カ月かかりました。しばらくするとササがまた復活してくるので、それを刈るのにまた半月……と、長い時間と手間をかけました。

——参加型活動の事前告知はどのようにしていますか？ホームページをお持ちなのは1団体だけのようですが、一般の人たちにどうやって活動を伝えていますか？

高橋眞由美さん(「夢見の森」に目覚める・森林再生プロジェクト)

新聞のイベント情報欄に小まめに連絡して載せてもらったり、チラシをコンビニ全店に貼りにいたりしています。

渡邊亮宏さん(恵庭ふるさと100年の森)

森の開放日を設けて、保育園・幼稚園を通じて保護者に伝えています。「教育的な利用」をコンセプトにしていますが、「森で遊ぶ」意味を理解してもらうのがなかなか難しい。自然界のリスクをあえて排除せずにいるのですが、遊びの最中にケガをした場合など、「どういう管理をしているのだ？」と抗議を受ける可能性もあり、参加者を広く一般に募ることはできていません。顔の見える範囲での広報をしているところです。

足立成亮さん(フォレストスケープ)

私どもの森にも「共有」という明確なコンセプトがあります。里山の機能、森の空気感といったものを「共有」するために、どちらかというと広報は内向きです。地域の町内会や小学校に、といっても児童数約10名の学校なので非常に小さなコミュニティですが、チラ

シを配布しています。

奥山寿久さん(自然エネルギーを考える会)

基本的には各会員のネットワークを利用しています。

それだけでもイベントにはかなりの人数の参加者が集

まります。地元の地方紙（プレス空知）がいつも好意的に記事にしてくれていて、それを見て参加する人も多くおられます。

講 評

北海道から森の文化を発信したい

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会副会長 森 哲子



みなさん、発表をありがとうございました。それぞれ素晴らしい活動をされ、発表の映像もすごくいい感じで、楽しませてもらいました。

森を楽しむ・森を知る・森で暮らす……。いわば森の文化に関してそれぞれコンセプトが明確で、それに基づく活動が行なわれていたと思います。

個人的には、**自然エネルギーを考える会**の「草木染め体験イベント」に心をくすぐられました。やってみたいな、果たしてどんなふうに染め上がるのかな、と好奇心をそそられました。森を楽しみ、森の恵みをみなさんに体験してもらおう素晴らしい活動をされていると思います。

『**夢見の森**』に**目覚める・森林再生プロジェクト**は、何といってもロケーションが素晴らしいですね。朝・昼・夕それぞれの時間帯に素晴らしい色彩の変化があるところです。そこに山をお持ちなのはうらやましい。道にホタテの貝殻を敷いたらそれが大きな話題になったそうですが、日常の活動が人の関心を引くという自然な流れが生まれています。たった3人から始めたのに、現在は10倍以上のメンバーになっているのも素晴らしい。他の3団体に

も共通することですが、約3年の短い活動期間にもかかわらず、毎年ほぼ倍々に活動が深化・充実し、コンセプトがより明確化されています。このエネルギーたるや素晴らしいなと感じました。

「ギフト経済」という言葉も出ました。**フォレストスケープ**の活動にも同じようなコンセプトを感じましたが、こういった循環経済がきちんと発信されることによって、道内の森林・山村の魅力が一段とアップされるんじゃないかと思います。

フォレストスケープは、フリーランスの木こりさんたちが集まって始められたのですね。森づくりや林業に対するコンセプトが非常に明確で、あくまで基本のコンセプトを理解したうえで参加してもらおう、ということを重視されていると感じました。森の活動にリスクはつきものです。リスクを知り、自分の身を自分で守ることも必要でしょう。そうしたことも上手に活動プログラムに折り込んでおられたと思います。情報発信もしっかりなされ、動画映像に出てきたカレーライス、すごくおいしそうでした（笑）。

恵庭ふるさと100年の森の「親父たちの森フェス」の光景は、思わ

ず「いいネ」ボタンを押したくなりました。ターゲットが明確で、森には危険もあるけれど、自分で身を守る方法を教えながら、大人たちも一緒に森の中で成長していく、そういった活動がとても魅力的でした。里山は、遊びのための道具をいっぱい発見できる場所なんだなあと改めて感じました。

これからいかに事業を継続していくかが課題だと、みなさんが同じように挙げておられました。3年間の交付期間が終わった後、どうやって収益を確保していくかは、本当に大きな課題だと思います。このままでは自分たちが疲弊してしまうのでは、という心配もおありでしょう。イベントへの参加、薪など森林資源の活用などを、森の文化として北海道全体から発信できたらいいなと思いました。そんな中でみなさんは意欲を保ちながら、また悩みながら、活動に取り組んで下さっています。私たちもそういった活動を支援できるようにいろいろ工夫し、考えているところです。また、こういった座学だけではなく交流の場も企画できたらいいですね。

今日はみなさん、どうもありがとうございました。